

8月25日（月）

サンパウロ市役所表敬訪問

午前9時15分、サンパウロ市役所会議室において、ナジア・カンペオン副市長を表敬訪問した。

市役所に入ると、エレベーター前に機械のゲートがあり、受付の職員も数名いた。治安の問題があるのかもしれないが、視察の冒頭から厳しいセキュリティー体制を感じさせられた。

まず、ナジア・カンペオン副市長から遠方より来伯した大阪市代表团及び大阪市会代表团を歓迎する旨のあいさつを受けたのち、大阪市代表团を代表して田中副市長があいさつをした。

（田中副市長あいさつ要旨）

大阪・サンパウロ姉妹都市45周年を迎え、それをサンパウロで祝えることを喜ぶとともに、ブラジルでのワールドカップが成功裏に終了したことに心から敬意を表す。また、先週、大阪ジュニアバンドが当市を訪れた際にも温かく迎えていただいたことについて改めてお礼申し上げる。

1969年の姉妹都市提携以来、環境技術を中心として交流を進めてきたが、今回は都市計画の担当も同行している。これは先々月、ネット議員が来阪の際に大阪の都市計画についてぜひ紹介してほしいとの要請を受けたものである。今後も両市が益々発展していくことを望んでいる。

次に、大阪市会代表团を代表して床田市会議長があいさつを行った。

（床田市会議長あいさつ要旨）

過日、姉妹都市提携45周年に当たり、サンパウロ市国際局長から招請状を頂いた。お忙しい中、ナジア・カンペオン副市長をはじめとする市関係者の皆様が私どもを温かく迎えていただいたことについて、心から感謝申し上げます。副市長におかれては女性初のスポーツ局長就任をはじめ、FIFAワールドカップの準備のための特別委員会のコーディネーターを務めるなど、社会の第1線で活躍されていることに敬意を表す。日本の重要政策の一つに「女性の輝く日本」があり、本日は副市長のように女性が輝くことのできる秘訣を伺いたいと思う。

今回の訪問で多くの方々との交流を通じて両市の友好関係の発展に努めてまいりる所存である。また、次回はぜひ大阪に来ていただき、大阪のおいしいものなどを存分に味わっていただきたいと思います。

続いて、吉川大阪・サンパウロ姉妹都市協会会長からあいさつと姉妹都市協会が行っている交流内容などについて簡単な説明があったのち、ナジア・カンペオン副市長

からサンパウロ市の現状と課題について説明を受けた。

(説明要旨)

- ・サンパウロ市では多くの日系人が地域社会に溶け込み活躍している。また、サンパウロ市民は市の経営に強い関心を持っており、積極的に市政に参画する意欲を持った市民性である。
- ・サンパウロ市は全国のGDPの12パーセントを担うというブラジル最大の大都市であるが、一人当たりになると、他の大都市に後れを取っている状況である。
- ・サンパウロ市では、雇用創出を図った結果、全国から多くの人々が定住することとなり、現在も人口は増え続けており、1,150万人にまで膨らんでいる。結果として、住宅問題や公共交通の問題などを抱えることになった。
- ・我々は都市計画に強い関心を持っており、このたび都市計画指導条例を公布したところである。
- ・今回は、同じ大都市であり、同様の課題に取り組んでいる大阪市の取り組み、経験を勉強させてもらうまたとない機会である。
- ・例えば都市交通など、今よりもっと便利に、安く、早くといった知恵をぜひ学ばせていただきたいと思う。環境面でも固形廃棄物の処理など、大阪市の優れた取り組みを教えていただきたい。
- ・今回の行程を見ると、文化面だけでなく行政面を含めた実りの多いものになりそうだと感じた。環境、都市計画など両市で共有し合える内容について、大都市の持つそういった情報を獲得することは有意義なことと考えている。
- ・改革期に入りつつあるときに皆さんが来てくれたのは好機と考えている。この後、サンパウロ市と大阪市でどのような協力体制を構築していけるか、協議してまいりたい。
- ・私の任期中にぜひ大阪に訪問させてもらいたい。可能であればその際に今回まとまった両市の結び付きを正式に調印するといった具体的な形にできればこれ以上の喜びはない。



このあと、お互いに記念品の贈呈を行い、記念撮影を行った。

大阪橋（東洋人街）等視察

大阪橋は、リベルタージ地区の中心に位置する橋であり、大阪市とサンパウロ市の姉妹都市提携を記念してその名が付けられたものである。ちなみに「リベルタージ」とは「自由」を意味するそうである。

大阪橋周辺の一帯は世界最大の日本人街であったが、近年、中国・韓国系の移民の増加に伴い、同地区への出店などが進み、現在は「東洋人街」と呼ぶことが一般的である。

東洋人街は日系人が多いエリアであることから日本語が通じたり、日本円を通貨として利用できたりする店舗も多く、ラーメン、たこ焼きやお好み焼きといった大阪にもなじみの深い日本食を提供している店舗もある。

また、大阪橋は大きな赤い鳥居が目印で、それが観光の目玉にもなっているが、ほかにも日本らしい雰囲気を出すためか、街灯として提灯が用いられており、夜間は風情のある景色になるものと推察される。

市会代表団はリベルタージ広場から地区内を順に視察し、東洋人街の中で昼食を取ったのち、東洋人街から近い大聖堂を視察した。

大聖堂の前の広場では、毎朝、日雇いの工事作業員をトラックに乗せて現場へ運んでいるとのことである。この間、FIFAワールドカップの関係で多くの労働者が工事作業員として従事していたが、ワールドカップが終了した現在は、その多くが職を失っており、広場には働き口のない労働者が多く存在していた。

また、ストリートチルドレンも多く見受けられるなど、猥雑で治安面でも不安を感じるエリアになっていると感じた。市会代表団が訪れた際には警察官が数人配備されるなど、物々しい雰囲気を感じた次第であった。

一方、大聖堂の中は外の喧騒とは打って変わって静かな空気に包まれ、荘厳な雰囲気であった。

大聖堂内の視察後、セミナーに参加するため、再びサンパウロ市役所を目指した。



大阪橋



大聖堂前の広場にて

大阪・サンパウロ姉妹都市提携 45 周年記念セミナー

午後 3 時 30 分、サンパウロ市講堂において、両市の友好をさらに深めることを目的として、都市計画、環境分野を中心とした大阪・サンパウロ姉妹都市 45 周年記念セミナーが開かれた。

まず、司会から大阪市とサンパウロ市のこれまでの友好の歴史について説明があり、田中副市長が主催者を代表してセミナー開会に当たってのあいさつを行った。

(あいさつ要旨)

本日は、姉妹都市提携 45 周年を記念して、このようなすばらしい講堂で都市計画、環境政策についてのセミナーを共同で開催することができた。サンパウロ市国際課をはじめとした市の関係者に感謝申し上げるとともに、ジェットロサンパウロ事務所や在伯大阪なにわ会など多くの関係者のご協力によって実現できたことに感謝申し上げます。

なお本日は我々といっしょに大阪市会代表団の皆さんも訪れているので紹介申し上げます。(市会代表団を副市長が順次紹介)

本日のセミナーはポリセ・ネット市議会議員が本年 5 月に来阪の折に、大阪の公共交通機関を中心としたまちづくり、民間活力を利用したまちづくりについて、私どもが訪問した際に発表してほしいという要請を受けて実現したものである。

大阪市とサンパウロ市が 1969 年に姉妹都市提携を結んで以来、これまで幅広い分野で交流を進めてきた。本日のセミナーでは大阪市の経済戦略、都市再生の取り組み、環境政策に関する成果と課題についてご紹介する。このセミナー開催を機に両市がお互いに学びあい、相互に発展し、友好関係がさらに深まることを期待する。

続いて、同じく主催者であるサンパウロ市を代表して、国際局のフェデリコ・アシス氏があいさつを行った。

(あいさつ要旨)

大阪市代表団並びに大阪市会代表団の訪問をお喜び申し上げます。

大阪市とサンパウロ市はよく似ている。どちらも大都市であり、近隣自治体の繁栄に寄与している。

これまで 45 年間姉妹都市として良好な関係を築いてきており、サンパウロ市が抱える課題の解決策を望んでいる。

大阪市には都市開発や環境施策において多くの実績がある。サンパウロ市ではこのたび都市計画指導条例を公布した。今後 16 年間の取り組み方針であり、より人にやさしく、より整理されたまちを目指して取り組んでいく。この都市計画指導条例は長期に渡り住民の意見を募集し、その内容を反映しているものである。

今後とも大阪市とより緊密な関係を築いていきたいと思う。

次に、来賓のポリセ・ネット市議会議員から、大阪市代表团並びに大阪市会代表団のサンパウロ訪問に対するお礼と今後の姉妹都市としての両市がさらなる発展を遂げることを願う旨のあいさつがあり、石田ジェットロサンパウロ事務所長からも、姉妹都市提携45周年を記念して祝辞が述べられた。

次に、サンパウロ市の都市計画「New Urban Master Plan」に関するプレゼンテーションが行われた。

(説明概要)

- ・サンパウロ市は総人口1,100万人、市域は東西60キロメートル、南北40キロメートルに広がっている。GDPは2,000億ドルで全国の約12パーセントを占めている。
- ・今回の都市計画指導条例の最大のメリットとしては、市内全域の容積率の数値化ができたことである（ブラジル基準の数値1＝日本の容積率100パーセント）。その結果、容積率を超過する市内のすべての建築物は条例違反となり、市に罰金を支払うこととなる。集めた罰金は都市開発基金として蓄積し、低所得者層向け住宅若しくは公共交通機関に充てることとされている。
- ・まず、住宅政策として「社会的関心のある特区」を策定し、当該土地の容積率を倍にするなどの取り組みを進め、社会的関心のある住宅、いわゆる低所得者層向け住宅の建設を進めていく。今回の計画で、新たに都市開発基金がその財源として位置づけられたことは大きい。
- ・また、環境アジェンダの導入や農村地域の整備計画など、これまでの都市計画にはなかった新たな取り組みも盛り込まれている。
- ・次に、公共交通については、隣接する土地を市が利用することを奨励し、公共交通を軸として今後の都市開発を進めることとした。そこで新たに市内のゾーニングを示し、今後の土地の高層化、人口密度の分散化など目指すべき方向を打ち出した。
- ・最後に、市の決定における市民の参画を奨励し、市での計画の検討段階、市議会での議論途中を含め、多くの市民からの意見を反映するため公聴会や説明会を100回以上行ってきた。参加者は延2万5,000人以上。出された提案は1万件以上、インターネットでの提案が5,000件以上集まった。
- ・今回、市民からの意見を募集する際には、デジタルデータの活用を積極的に行い、デジタルデータ内に市内の様々なマップを用意し、そこに意見を書き込めるように



するなど、双方向で情報や意見が共有できるといった、市民参加型の意見募集形式の構築を図った。今後もこの形を進めていきたい。

この後、大阪市からは、井上経済戦略局長が大阪市の成長戦略として取り組んでいる都市魅力の向上について、辰巳都市計画局計画部都市計画課長が大阪の都市再生に向けた取り組みについて、蓑田環境局施設部長が環境先進都市大阪の取り組みについて、それぞれプレゼンテーションを行った。時間の都合上、質疑応答を行うことができず、セミナーは終了した。

セミナー終了後、コーヒーネットワーキングを行い、出席者との交流を図った。

在サンパウロ日本総領事との意見交換会

午後7時30分、予定を少し遅れて総領事公邸に到着した。福冨総領事から温かくもてなされ、簡単なあいさつを交わしたのち、食事を交えながらの意見交換を行った。

NHフーズ・ブラジル有限責任会社（日本ハムの現地法人）の西裏代表取締役からはブラジルの加工食品の現状からみた日本の技術が入り込む余地といったことについて話を伺った。

日本ハムの現地会社ということで野球をはじめとするスポーツ振興の取り組みについての意見も交わされた。

長瀬産業株式会社の現地責任者である辻社長からは、ビザが取得しやすくなるよう大阪にブラジルの領事館を作ってほしいということ、またブラジルの税体系とビジネスのしやすさについて話を伺った。

ダイキン・マッケイ・エアコンディショニングの桑山副社長からは、ビザの取得に時間がかかること、複雑な税体系のしくみ、法律の改正が上書きされるため複雑であること、物価が高いことなどについての話を伺った。

現地の日本企業の皆さんからは、現地でいっしょにやっ払いこうという気概が強く感じられた。

最後に、田中副市長、床田市会議長から大阪・サンパウロの絆を深めるためにできることを考えていく旨のあいさつを行い、意見交換会を終えた。